

平成26年度病害虫発生予察注意報第1号

平成26年4月4日
愛知県

作物名：ウメ、モモ、ナシ、ブドウ、カキ
病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い
- 3 注意報発表の根拠

- (1) 県下15地点で常緑広葉樹林落葉中におけるチャバネアオカメムシの越冬量を調査した結果、1㎡当たりの越冬成虫数は3.2頭/㎡（過去10年平均0.93頭、前年0頭）と過去10年間で2番目に多かった（図）。
- (2) 越冬成虫の採集地点率は86.7%（過去10年平均44.0%、前年0%）で、過去10年間で最も高くなった（表1）。
- (3) 越冬量が多いため、越冬成虫が活動する4月～7月の果樹園への飛来量は多くなり、被害が多発すると予想される。

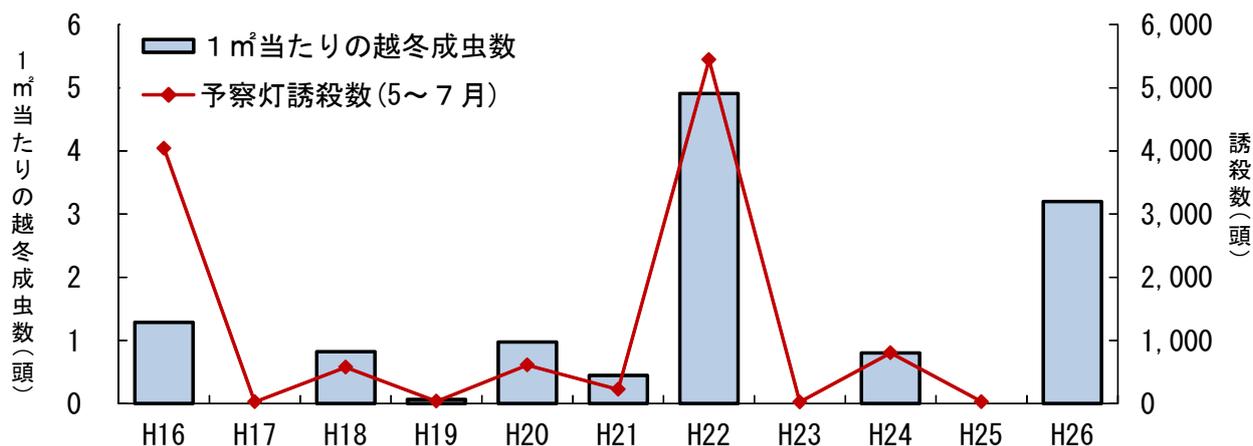


図 チャバネアオカメムシの越冬成虫数と予察灯における誘殺数（豊橋市・新城市 5～7月）の関係

表1 地点別チャバネアオカメムシの越冬成虫数

調査地点	(頭数/3㎡)											平均
	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	
幸田町須美北山(北)	1	0	0	0	0	1	0	0	3	0	13	0.5
幸田町須美北山(東)	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	4	0.5
新城市大海	13	0	5	0	8	4	52	0	10	0	20	9.2
新城市市川	2	0	1	1	2	2	5	0	3	0	22	1.6
新城市中宇利	17	0	7	0	7	2	55	0	10	0	41	9.8
新城市稲木	5	0	4	0	3	2	18	0	0	0	0	3.2
豊橋市嵩山町	2	0	2	0	2	1	4	0	1	0	4	1.2
豊橋市石巻中山町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊橋市石巻萩平町	1	0	0	0	2	0	5	0	0	0	1	0.8
豊橋市石巻平野町	2	0	12	0	5	2	35	0	4	0	10	6
豊橋市石巻小野田町	5	0	5	1	9	1	16	0	1	0	5	3.8
豊川市平尾町	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5	0.1
豊川市千両町	5	0	0	0	2	0	5	0	0	0	6	1.2
豊川市足山田町	4	0	0	0	3	2	5	0	1	0	6	1.5
豊川市金沢町	1	0	1	1	0	3	18	0	1	0	7	2.5
平均(頭数/㎡)	1.29	0	0.82	0.07	0.98	0.44	4.91	0	0.80	0	3.20	0.93
採取地点割合	80.0%	0%	53.3%	20.0%	73.3%	66.7%	80.0%	0%	66.7%	0%	86.7%	44.0%

4 防除対策

- (1) カメムシ類は、20℃以上で風が弱い夜に行動が活発になり、長距離の移動もするようになる。そのため、平坦部の果樹園に突然飛来したり、山沿いの果樹園で飛来が急増したりするので、園内をよく見回り、成虫の飛来状況を確認する。
- (2) カメムシ類は局地的に飛来して、集中して加害する傾向がある。また、園地間差が大きいので、過去にカメムシ類の被害が多かった園では特に注意する。
- (3) 越冬成虫量が多い年は飛来が長期間続くので、飛来を確認したら、残効の長いネオニコチノイド剤もしくは合成ピレスロイド剤を散布する(表2)。

表2 カメムシ類に対する主な防除薬剤と使用基準

作物名	薬剤名	系統	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
ウメ	アクタラ顆粒水溶剤	A	2000倍	収穫7日前まで	2回以内
	ダントツ水溶剤	A	2000～4000倍	収穫3日前まで	3回以内
	スカウトフロアブル	B	2000倍	収穫前日まで	3回以内
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	A	2000倍	収穫前日まで	3回以内
モモ	ダントツ水溶剤	A	2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内
	アドマイヤー水和剤	A	1000倍	収穫3日前まで	2回以内
	MR. ジョーカー水和剤	B	2000倍	収穫前日まで	2回以内
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	A	2000倍	収穫前日まで	3回以内
	テルスターフロアブル	B	3000倍	収穫前日まで	2回以内
ナシ	MR. ジョーカー水和剤	B	2000倍	収穫14日前まで	2回以内
	アドマイヤー水和剤	A	1000倍	収穫3日前まで	2回以内
	アクタラ顆粒水溶剤	A	2000倍	収穫前日まで	3回以内
	ダントツ水溶剤	A	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	A	2000倍	収穫前日まで	3回以内
	スカウトフロアブル	B	1500倍	収穫前日まで	5回以内
ブドウ	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	A	2000倍	収穫前日まで	3回以内
	ダントツ水溶剤	A	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内
カキ	MR. ジョーカー水和剤	B	2000倍	収穫14日前まで	2回以内
	アドマイヤー水和剤	A	1000倍	収穫7日前まで	3回以内
	スカウトフロアブル	B	1500倍	収穫7日前まで	5回以内
	ダントツ水溶剤	A	2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内
	アクタラ顆粒水溶剤	A	2000倍	収穫3日前まで	3回以内
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	A	2000倍	収穫前日まで	3回以内

注) 系統の「A」はネオニコチノイド剤、「B」は合成ピレスロイド剤であることを示す。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

5 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室
電話: 0561-62-0085 内線471